

---

論文パーフェクト【赤木】ゼミ  
入室説明会 & 無料体験会  
～特待生試験の問題を題材に～

---

れっく **LEC** 東京リーガルマインド



0 001213 170245

LM17024



2017 論文パーフェクト【赤木】ゼミ  
入室説明会&無料体験会  
～特待生試験を題材に赤木講師による解説～

第1 司法試験論文に求められるもの

1 今年の本試験合格ラインから見えてくるもの

合格最低点 800点

※短答合格者平均 125.4点

→論文合格には、論文で674.6点必要(14/8を乗じた後の点数)

=素点としては、385.49点(1科目48.19点)が必要

※H28 合格最低点880点、短答合格者平均133.2点

(論文では素点426.74点(1科目53.3点))

※H27 合格最低点835点、短答合格者平均133.6点

(論文では素点400.80点(1科目50.1点))

※H26 合格最低点770点、短答合格者平均244.3点(素点、7科目時代)

(論文では素点370.20点(1科目46.3点))

→合格点の上昇傾向は頭打ちか。「一応の水準」は最低限確保し、「良好」を確保する視点で学習する必要性は同じ

2 短答合格点越えと最終合格者数の関係

H26 1810/5080 (35.6%)

H27 1850/5308 (34.9%)

H28 1583/4621 (34.3%)

H29 1543/3937 (39.2%)

→受験者数の減少から短答合格者数も減少(但し最終合格者は同数)

→基礎をきっちり押さえて外さない論文を書けることが極めて重要

3 小括

全体で短答合格者のうち、上位1/3に入れば合格する点は同じ。

↓

論文突破には、初見で未知の問題を検討した結果、時間内で、一応の水準を超えて、良好に近いくらいに(=「それなりに」)書けていること

- ※1科目でも「不良」(4 1点以下)をとるとよほどでない限り挽回は困難
- 沈まない答案作成技法の重要性(基礎知識の確立は大前提)
- ※ホームラン狙いではなく、来た球を素直に打ち返すセンター返し。

#### 4 必要な能力(手段)

未知の問題に時間内で「良好」近く書けるには何が必要か?

(≠時間無制限の完全解 ←トップ合格でも全科目優秀はあり得ない)

↓

論文の必要要素=結論と理由

法律論文の「理由」=条文等の要件効果(場合によって要解釈)+事実の評価適用

論文の問題=当事者間における具体的な紛争

↓ 総合すると

当事者がどんな権利義務の主張・反論をしたいか(当事者目線)、そしてそれは条文等から法的構成できるか(条文至上主義。条文・判例等の正確な知識とその運用)の思考力の涵養が重要

↓ これらの獲得によって

事例把握・分析の正確性と速度の Up ※書くスピードは変えられない。

→時間内である程度説得的に書き切れる

まとめ:必要な能力(どちらかが欠けても合格は遠い)

=①条文・判例に関する基本的理解

②①をもとにした正確・迅速な分析・検討をする力(当事者目線思考の確立)

#### 第2 なぜ「過去問」を検討するか(過去問検討から得るべき「もの」)

過去問は、試験委員の叡智の結晶

But 二度は同じ問題は出ない

↓

得られるのは、

①本試験問題を通じた、「現場でなすべき思考方法」の習得・確立

②本試験で出題される可能性のある、事前習得が「必要な INPUT 範囲」の把握と、自身の弱点発見(「知識で解く」部分と「考えて解く」部分の峻別)

↓ さらに

時間制限をかけることで、時間との戦いへの慣れ（精神面含む）、時間内にまとめるための工夫訓練

検討の際、解きっぱなしではなく、解いた後の原因分析・フォローが重要。→第4へ

### 第3 過去問検討ゼミをお勧めするタイプ

以下のいずれかに当たる方は、過去問ゼミを通じての「伸びしろ」がある。

- ・ OUTPUT の検討手法が確立できていない自覚がある、または不安がある
- ・ 出題趣旨や採点実感を読んでも、なぜそれを書かなければならないのか、がしっくり来ない
- ・ 事実の抽出・評価に不安がある
- ・ 書き出しをどうするか不安がある

逆に過去問ゼミでは、以下の点は網羅的に対応しきれない点に注意。

(=各自の別個の努力が不可欠)

- ・ 基礎の弱点の発見・克服
- ・ 短答対策
- ・ 条文検索力
- ・ 初見問題の検討

#### 第4 問題検討後に何をするか

##### 1 「弱点」とは何か

本番で出た時に正しく書けない可能性のある部分

=問題検討時に、①間違えた(出てこない含む)、②あやふやだった、③偶然正答した(論文では少ない)部分(新旧司法試験過去問や、OUTPUT 講座の問題で)

↓

ただし、重箱の隅の知識は不要+短答プロパー(メジャーではない制度・分野)は外してOK  
→推奨されている基本書(予備校本も可)掲載情報がMAX。

※ 解釈(規範)の理由付けに注意。論理的でない理由付けは使用しない

##### 2 発見した後の処置

基本テキスト(一元化!)に戻り、苦手色マーカーなどで可視化(付箋OK)

↓

暗記努力

↓

一定時間(数週間)たった頃に、再度、発見素材の問題を解くなり、書けるかどうか挑戦してみ、できたら弱点克服(2回連続でできたら、という縛りをかけても良い)

#### 第5 過去問分析とは別にやるべきことから(論文)

##### (1) INPUT 部分の弱点発見・克服・条文素読

←ほぼ各自の自習領域。ゼミの範囲でお見せするノウハウを他にも応用を

##### (2) OUTPUT の積み重ねと思考の合理化

←判例の事案から「どう考えるか」の訓練

教科書事例でも「どう、どの順序で考えるか」の訓練

←各自の自習領域でもあるがOUTPUTゼミを有効活用することで修正・確立可能

最後に

学習計画の立案（来年5月をゴールに逆算し、但し少し緩めに）

（今年不合格者は）主観的な出来と客観的な出来の差異の有無及び原因把握  
再現答案と採点実感との比較

H19～H25の検討→出題サイクル

**れっく LEC** 東京リーガルマインド

著作権者 株式会社東京リーガルマインド

(C) 2017 TOKYO LEGAL MIND K. K. , Printed in Japan

無断複製・無断転載等を禁じます。

LM17024